



SGH課題研究「グローバル課題4領域について知り、気づき、探る学習」

ーグローバル課題4領域の概要を知り、その現状や課題に気づき、解決策のヒントを見つけるー

「国際開発」「国際ビジネス」編**開催概要**

◆ 学習のねらい

- ① 専門家による講義の内容から、この領域の現状や課題について理解する。
- ② 「わかったこと」「もっと知りたくなったこと」という観点から講義を振り返り、今後の各領域の調査研究への意欲につなげる。

◆ 参加者: 啓明コース及び国際コース1年生(計135名)

◆ 場 所: 中部大学春日丘高等学校 東校舎2階会議室

「国際開発」専門家講義

◆ 日 時: 平成30年6月16日(土)3、4時限

◆ 講 師: JICA 中部 青木 信彦氏

「国際ビジネス」専門家講義

◆ 日 時: 平成30年6月30日(土)3、4時限

◆ 講 師: 大垣共立銀行 臼井 誠司氏

当日の流れ

- ① 講師が講義(情報提供)を行い、生徒は講義メモを取りながら話を聞いた。
- ② 生徒は5、6人の班に分かれ、講義を聴いて「わかったこと」「もっと知りたくなったこと」をまとめた。
- ③ 各班の代表者が質問をし、講師に可能な範囲でお答えいただいた。

「国際開発」専門家講義

《講義の内容》

- ・JICAについて 日本のODAを一元的に扱う実施機関
- ・技術協力について “魚を与えるのではなく、魚の釣り方を伝える”協力
中部地域にあってはモノづくり、上下水道、電力等のテーマに特色がある
- ・官民連携 日本企業のビジネス展開を支援することで、途上国の課題解決に貢献
- ・リープ・フロッグ現象 革新的な技術により、従来とは異なる方法で課題が解決される可能性
- ・国際協力の必要性 日本と途上国の深い相互依存
- ・日本の若者の海外志向 海外留学・海外での仕事を望む中学生は少ない
→春日丘の生徒には、世界から何を期待されているかを考えてほしい

《質問と応答》

Q: JICAで働くにはどのような人材が求められますか?

→A: 語学力はもちろんですが、なんととっても人格。「あてになる人間」というのはJICAが求める人物像です。

Q: JICAの最終目標は何ですか？

→A: 世界中での協力が完了し、JICAが必要とされない社会の実現です。



講義の様子



班で話し合いをする生徒



質問をする生徒

■ 「国際ビジネス」専門家講義

《講義の内容》

- ・中国、上海の概要
- ・中国における賃金の上昇について
「中国で作り日本で売る」から「中国で作り中国で売る」へ
- ・中国は欧米の観光客を盛んに誘致
- ・一人っ子である中国の高校生には、祖父母両親からの期待が集中する
- ・中国でのモバイル決済 乗り捨てシェア自転車、タクシーアプリなど
- ・日本の常識は世界の非常識
中国におけるビジネスのスピード感 事例: アプリのチャットで連絡をとり、その場で決める

《質問と応答》

Q: シェア自転車は乗り捨てられた後どうなるのですか？

→A: 企業が回収します。利用と回収のプロセスが成り立っているのです。

Q: 中国に、日本にはない習い事はありますか。

→A: 日本と大きな差は感じませんが、しいて挙げれば中国の民族楽器でしょうか。



講義の様子



質問をする生徒



質問に答える講師

■ 生徒の感想

国際開発

- ・「魚の釣り方を伝える」という喩えが使われた協力について、より詳しく知りたいと思った。
- ・国際協力は地域ごとの差に応じて対策していかなければならないと分かった。
- ・必ずしも発展途上国＝おこなっている訳ではないと分かった。

国際ビジネス

- ・国際ビジネスをすることによって新しい発見が生まれることもあると気づいた。
- ・身近な企業が世界に関わっているようだが、どんな企業かもっと知りたくなった。
- ・日本も積極的にモバイル決済のシステムを取り入れるべき。